

令和5事業年度 損益計算書の概要

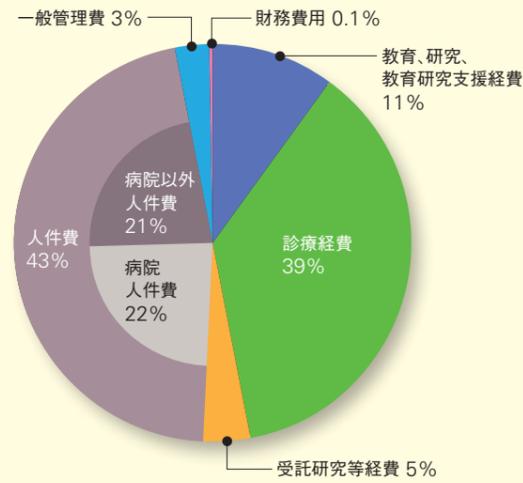
損益計算書は、事業年度内に徳島大学が実施した事業等により発生した全ての費用と収益を記載することによりその運営状況を明らかにしています。

(単位：億円)

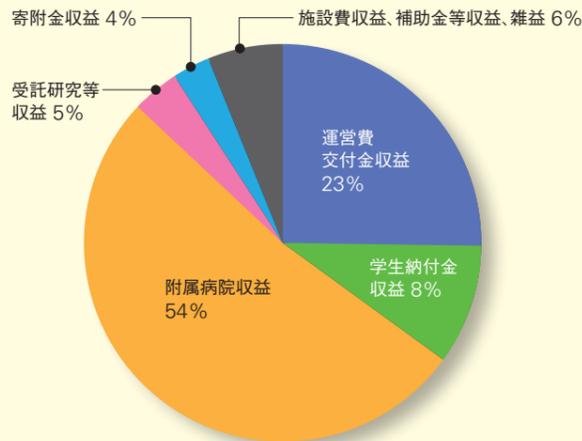
経常費用		経常収益	
業務費	508.0	運営費交付金収益	120.0
教育経費	22.9	学生納付金収益	44.5
研究経費	29.9	附属病院収益	286.5
診療経費	204.9	受託研究等収益	26.2
教育研究支援経費	2.6	施設費収益	3.7
受託研究等経費	24.0	補助金等収益	21.7
人件費	223.7	寄附金収益	19.8
一般管理費	13.1	雑益（財産貸付料等）	6.2
財務費用（支払利息）	0.8	経常収益合計	528.6
経常費用合計	521.9		
臨時損失		臨時利益（保険料収入）	
固定資産除却損	0.4		1.3
減損損失	0.3		
過年度修正損	8.1		
その他	1.3		
臨時損失合計	10.1		
目的積立金取崩額			0.6
当期総損失			1.5

注）単位未満を四捨五入しているため、必ずしも計及び増減は一致しません。

経常費用構成（令和5年度） 経常費用合計 521.9億円



経常収益構成（令和5年度） 経常収益合計 528.6億円



令和5事業年度 貸借対照表の概要

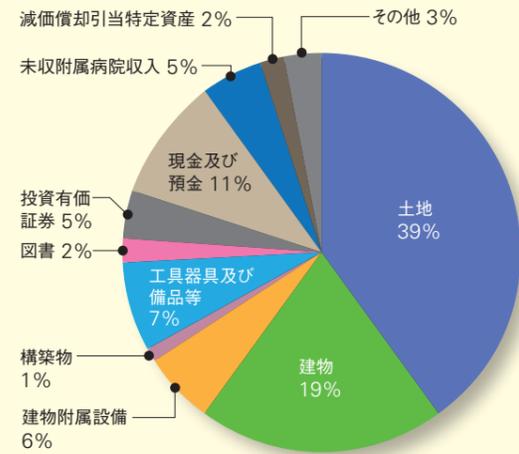
貸借対照表は、決算日(令和6年3月31日)における徳島大学の全ての資産、負債及び純資産を記載することによりその財政状態を明らかにすることを目的としています。

(単位：億円)

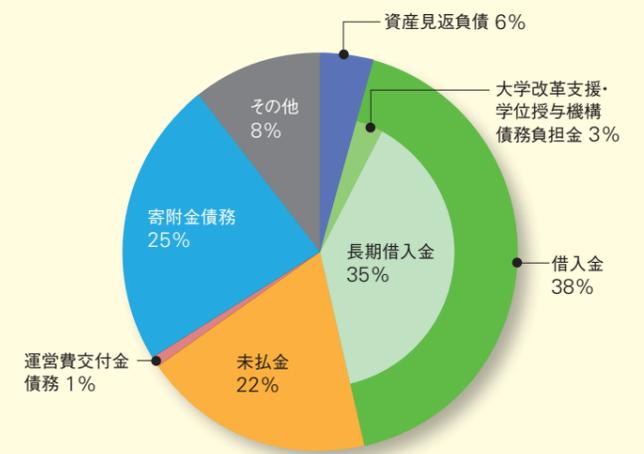
資産の部		負債の部	
土地	446.1	資産見返負債	20.2
建物	218.0	借入金	140.5
建物附属設備	69.5	未払金	79.0
構築物	15.9	運営費交付金債務	3.2
工具器具及び備品等	79.9	寄附金債務	90.4
図書	26.7	その他	30.5
投資有価証券	51.2	負債の部合計	363.8
有価証券	0.0		
現金及び預金	124.0	純資産の部	
未収附属病院収入	54.2	資本金	467.3
減価償却引当特定資産	24.5	資本剰余金	77.6
その他	28.3	利益剰余金	229.5
		純資産の部合計	774.4
資産の部合計			
	1,138.2	負債及び純資産合計	
			1,138.2

注）単位未満を四捨五入しているため、必ずしも計及び増減は一致しません。

資産構成（令和5年度） 資産合計 1,138.2億円



負債構成（令和5年度） 負債合計 363.8億円



透明性のある財政・運営
財務
レポート

徳島大学は本学を支えてくださる国民の皆さま方に透明性のある財務情報を提供し、大学の財政状態及び運営状況について明らかにするとともに、ご理解をいただくことが重要な責務の一つと考えております。

この財務レポートは、徳島大学の現在の財務状況をお伝えするため、令和5事業年度財務諸表をもとに作成いたしました。

令和5事業年度の財務状況についてですが、上段に記載のとおり、一年間大学を運営するための費用（経常費用）は521.9億円でした。一方、大学の運営に伴う収益（経常収益）は528.6億円で、経常利益（経常収益－経常費用）は6.6億円でした。

令和5事業年度は、国際情勢の悪化、円安の影響で燃料費・物価が高騰しており、大学を取りまく環境は厳しいものでしたが、自己収入の確保、予算の効率的執行、補助金、受託研究費等の外部資金の獲得に努めたことにより、財務状況に大きな支障が生じることなく運営することができました。

しかしながら、建物の耐用年数の修正を行い、過年度分の減価償却費を臨時損失として計上したことにより当期総損失は1.5億円となりました。この当期総損失は現金を伴わない会計上の損失のため収支に影響はありません。

本学では、大学運営に係る財政基盤の要である国からの運営費交付金は、法人化翌年の平成17年度から毎年約1億円ずつ減額されております。この状況に対応するため、国への予算要求及び自己収入の増加に取り組みとともに、将来の設備更新を計画的に実行する資金を確保するために引当金を積極的に活用するなど資金獲得・確保に向けた各種方策に取り組んでおります。

今後も安定した経営を行うべくためには、更なる経費の節減を図るとともに、積極的な外部資金の獲得に努めていくことが重要であると考えております。

本学は、教育・研究・社会貢献及び診療の各分野にわたり、その充実と不断の見直し・改善を進めて参りますので、今後ともご支援、ご協力のほど、よろしくお願いたします。



財務情報の
詳細